

地方創生

－住みたいと思う町づくり－

日大生産工（学部） ○鈴木晴久
日大生産工 山本壽夫

1. まえがき

近年、首都圏一極集中により地方は少子高齢化や人口減少、財政難に陥り地方創生が重要視されている。東京オリンピックが近々行われることから、訪日外国人に焦点をあて、観光を通して交流人口を増やすことで地域活性化の戦略を考え研究を論じていく。

2. 先行研究

先行研究として、次の項目に関する研究を前提とする。

- (1) 地方／地域活性化とマーケティングについて。(行川一郎、神奈川県大学、2015.9.30)
- (2) 地域活性化と地方創生。(小川長、尾道市立大学)
- (3) 2030 年に訪日外国人旅行者数 6000 万人到達に向けて：地方への外国人旅行者誘客の必要性和有効性についての考察(西田透、関西外国語大学)
- (4) 訪日外国人旅行者 2000 万人の実現に向けた観光施策（山崎治、千葉工業大学）

3. 現状分析

先行研究をもとに、本研究に必要な下記項目について現状分析を行った。

- (1)過去から現在、将来までの人口推移

2020 年以降の将来人口予想を見ると、人口減少の勢いに一層の拍車が掛かり、生産年齢人口、年少人口は現在よりもさらに減少するとともに、2040 年まで増加し続けると予想される高齢人口さえ、それ以降は減少すると見込まれている。

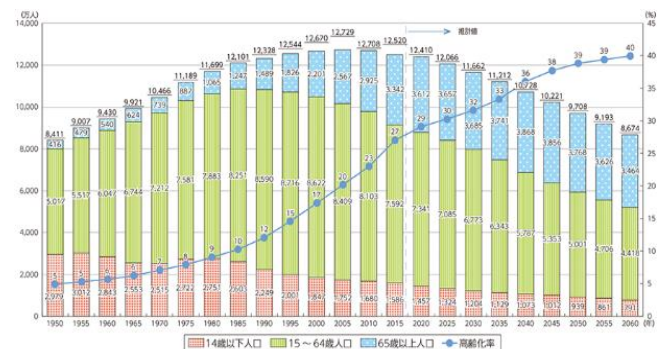


図1 我が国の人口の推移（2015 年までは総務省「国勢調査」（年齢不詳人口を除く）、2020 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」（出生中位・死亡中位推計）

(2) 訪日外客数の動向

2015 年時点では、訪日外国人旅行者の 84.3%はアジア諸国からであり、欧米からは 12.9%にとどまっている。主な訪日外国人旅行者（ビジットジャパンの重点市場 20 カ国・地域からの旅行者）で見ると、アジア諸国からは 82.9%、欧米からは 10.8%となっている。

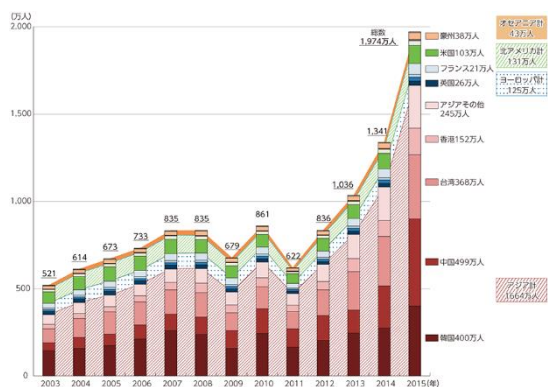


図2 訪日外客数の動向

(3)現在の訪日外国人都道府県別宿泊者数
宿泊数は前年比8.0%増の7088万人泊と、
07年の調査開始以来最高になった。東京・大阪・愛知など都市圏で4.8%増と好調に推移したほか、地方部で13.2%増と大きく伸びているのが現状である。

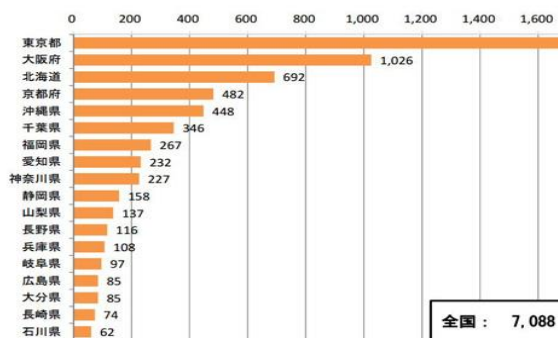


図3 現在の訪日外国人都道府県別宿泊者数

4. 問題点の抽出

- (1)地方の知名度が低迷。
- (2)日本の人口は年々減少、日本人に焦点をあてるのは発展低迷。
- (3)訪日外国人が主な都市に集中していて地方が少ない。

5. 対応策

- (1)観光を通して交流人口を増やし地域を知ってもらう。
- (2)2020年東京オリンピックの開催が近いので、訪日外国人に焦点をあてる。

(3)在留外国人の戦略的な観光の活用方法。外国人の視点に基づく地方の商店街や文化をネットによるプレゼンテーション。

6. 検証

本研究には、ケーススタディ方式と統計分析を用いて検証を行い、対応策の実証について検討を進める。

7. おわりに

本研究では、地方と都市、訪日外国人を視野に入れ検討を進めてきた。また、残された課題に対して検証を進めていく。

参考文献

- (1) 地方／地域活性化とマーケティングについて。(行川一郎、神奈川大学、2015.9.30)

<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/bitstream>

- (2) 地域活性化と地方創生。(小川長、尾道市立大学)

<file:///C:/Users/yamamoto01/Downloads/3-小川長.pdf>

- (3) 日本の観光政策における自然観光資源の位置づけとその現状。(片岡美喜、高崎経済大学、2009.2)

<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/508850/www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/kikanshi/ronbun11-4/kataoka.pdf>

- (4) 地方創生の意義と課題についての一考察。(井上 武史、東洋大学)

https://www.fpu.ac.jp/rire/publication/regular/002173_d/fil/2aae7959a81344c730068.pdf